

報恩感謝

理事長・院長 上村晋一

去る 5 月の大型連休を利用して、東日本大震災で甚大な津波被害と原子力発電所災害の影響の残る東北地方を訪問しました。理由は、二つ。一つは熊本地震で被災した上村ぬくもり診療所と立野病院に二回も足を運んで頂いた福島県南相馬市の絆診療所に行くため。そしてスタッフ不足にも拘らず、当院に看護師を派遣して頂いた福島県双葉郡の医療法人社団養高会高野病院を訪問するためでした。道中の詳細は別に記そうと思っておりますが、とにかく未だ復興がままならない原発災害の影響の残るそれぞれの医療機関からぬくもりのあるご支援を惜しみなく頂きました。感謝を伝えたいがために勝手ながらおしかけたというわけです。

印象的なことがありました。仙台空港に着き、仙台市海岸公園の避難の丘近くの集落に案内されました。この集落はもともと 100 有余の家屋があったらしいのですが、7 年が経過し復旧して戻ってきたのは 11 件しかないとのことでした。その集落に木造一軒家で庭にある綺麗な花壇で、水を与えている穏やかな笑顔の老婦人の言われた一言が実に爽やかでした。「いつでも以前の皆さんが戻ってこられるようにこうして花を植えているのよ。熊本も頑張るって。」

仙台出身といえば、平昌五輪の金メダリスト羽生結弦選手です。彼は、「とにかく捨てて捨てて、捨てる作業をしたオリンピックでした。」と述べています。好きだったゲームだけでなく世界初の四回転ループという大技をも捨てて臨んだと聞きました。もしかすると多くを失い、捨てざるを得なかった東日本大震災を経験したからこそ、この勇気ある爽やかなる決断ができたのではないのでしょうか。

私たちも熊本地震で多くの事物を捨てざるを得ない経験をしました。そして恨みや文句などの消極的対応でなく、「どのくらい我慢できるのか試してみよう。」と積極的に対応する方が希望に繋がることも学びました。さらに、今回の旅を通じて被災地間の交流から得られる学びには限りが無いと感じました。職員全員で東北を訪れなければならないと切に感じています。